

水産研究部 企画調整事業

亀田崇史・日高悦久

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部（北部水産グループを含む）の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」などに係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、資源増殖チーム、養殖環境チーム及び北部水産グループの資源増殖チーム、養殖環境チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図った。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等の企画、立案を行った。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実を図った。

3. 研修事業

他機関や団体等からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図った。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズへの迅速、的確な対応、効率的な調査・研究活動を推進して、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき、会議を運営した。

また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議には、企画指導担当総括及び北部水産グループ養殖環境チームリーダーが、センター所属長会議には水産研究部長及び北部水産グループ長が出席して、センター本部との連絡調整を行った。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究開発を推進するため、水産研究部及び北部水産グループの研究予算等の調整と編成を行った。

3) 試験研究課題検討会

要望として出された試験研究課題について、試験研究課題検討会を実施し、課題の必要性、普及方法等について検討を行った。

4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究実施要領並びに大分県農林水産試験研究アドバイザー設置要領に基づき、学識経験者等のアドバイザーを招集して、水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会（通称：三水試）を開催した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、水産研究部及び北部水産グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

刊行物投稿規約に基づき、大分県農林水産研究指導センター研究報告（水産研究部編）を編集、発行した。

c) 広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA NEWS(アクアニュース)を編集、発行した。

G. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）及び北部水産グループのホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>）において、水温情報、

漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究員と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業(視察・研修受入)

開かれた研究機関としての役割を果たすために、視察、見学者への説明や案内等を行った。また、児童・生徒の学校関係者や生産者の研修や実習等に対応した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を7回開催し(うち、Web1回)、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

センター本部策定および水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の次年度当初予算を取りまとめて編成した。また、本年度補正予算編成にも対応した。

3) 試験研究課題検討会

2023年5月19日に試験研究課題検討会を実施し、課題の必要性、普及方法等について検討を行った。その後、農林水産研究指導センターを通じて要望者に検討結果を通知した。

4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

2023年6月、2024年1~3月の間に、大分県農林水産試験研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイス等を受けた(表1-1、表1-2)。なお、新型コロナウイルス感染防止対策等のため、1課題はWEB会議、1課題はメール会議により開催した。

表 1-1 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 企画調整部門	特 任 部 長	照 屋 和 久	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 育種部	育 種 基 盤 グ ル ー プ 長	岡 本 裕 之	学識経験者
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門 水産生物環境学研究室	准 教 授	島 崎 洋 平	学識経験者
国立大学法人 愛媛大学沿岸環境科研究センター 生態系解析部門 魚類感染症学研究室	准 教 授	北 村 真 一	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科 生物環境学講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村 瀬 昇	学識経験者
学校法人 福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 沿岸資源培養学研究室	教 授	太 田 健 吾	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産研究アドバイザー会議に付託した研究課題

研究課題名	担当チーム	研究期間	備考
ヒラメ耐病性家系の選抜育種	水産研究部資源増殖チーム	令和3~5年度 6月22日、1月26日	
IoT等を活用した有害・有毒プランクトン対策	水産研究部養殖環境チーム	令和3~5年度 3月11日(web)	
高級魚キジハタの種苗生産技術開発	北部水産グループ資源増殖チーム	令和2~6年度 2月28日、29日	
ヒジキ完全養殖技術の開発	北部水産グループ養殖環境チーム	令和3~5年度 2月20日~3月22日(メール会議)	

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等



図1 研究発表会の様子(大分県水産会館)

2024年2月2日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を実施した水産研究部から8課題、北部水産グループから4課題、北部振興局水産班から2課題の研究発表が

行われた(表2)。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

水産研究部の令和4年度事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第10号を2023年3月に発行し、ホームページで公開するとともに、県外の研究機関や大学、県内研究、行政機関等、県漁協各支店および沿海市町村水産主務課へ配布した。

c) 広報紙 AQUA NEWS(アークニュース)

本年度は、10月に第57号、2月に第58号を編集、発行し、ホームページで公開するとともに、県庁情報センターへ配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

表2 大分県水産関係研究者連絡協議会 研究発表会の発表課題名と発表者

発 表 課 題 名	発表者(所属)
新規栽培対象種として期待されるマダコ種苗生産の状況とその課題	崎山 和昭(北水G資増)
イタボガキシングルシード種苗の生産と養殖試験の経過	高橋 杜明(北水G資増)
新規栽培対象種の模索～シロアマダイ、マガキガイ～	白樫 真(水研部資増)
8月採卵種苗を活用した養殖ブリの出荷端境期対策	鈴木 翔太(水研部資増)
大分川におけるアユの放流効果と産卵場	平野 莊太郎(北水G養環)
近年のマアジ産卵量増加についての考察	和田 宗一郎(水研部資増)
ガザミ養殖試験 ～築堤式の現状と陸上養殖の検討～	吉岡 宗祐(北部振興局)
かぼすヒラマサ生産マニュアル作成に向けた取り組み	斉藤 義昭(水研部養環)
ブリ小型種苗の餌付けに用いられる餌飼料の比較	室谷 冬香(水研部養環)
Ⅲ型レンサ球菌のシマアジに対する病原性および試作ワクチンの有効性	吉井 啓亮(水研部養環)
伊予灘・別府湾における50年間の海況長期変動	毛利 文香(水研部養環)
大分県周防灘海域および第3～4四半期漁場環境における栄養塩の長期変動傾向	岡田 理(北水G養環)

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2023年6月28日に水産研究部、2023年7月3日に北部水産グループが開催した。水産研究部、北部水産グループは調査研究計画、振興局は普及指導計画、漁業公社は事業計画についての説明および質疑応答を行った。また、水産振興課からは“大分県漁業学校”の実施についての説明を行った。試験研究機関への要望については、各チーム・担当において対応し、後日、振興局水産班各総括あてに書面で正式に回答した。



図2 県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

2023年7月20日に豊後水道南部海区(佐伯市)、7月27日に豊後水道北部海区(大分市、臼杵市及び津久見市)を対象とした県漁協各地区漁業運営委員長及び関係市水産主務課長会議をそれぞれ開催した(図2)。

水産主務課長会議の様子(豊後水道北部海区)

会議において報告した研究取組状況について表3に示した。

表3 県漁協 地区漁業運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績及び研究取組状況の報告

開催日(場所)	対象地区	研究取組課題名/報告等
2023年7月20日 (県漁協佐伯支店)	豊後水道南部海区	「(1) 養殖ブリの端境期出荷に向けた8月採卵種苗現地養殖試験の取組」 水産研究部 資源増殖チーム 研究員 鈴木 翔太 「(2) III型レンサ球菌のブリに対する病原性とワクチン効果」 水産研究部 養殖環境チーム 研究員 吉井 啓亮
2023年7月27日 (臼杵土木事務所)	豊後水道北部海区	「マアジ1歳魚の生殖腺重量および肥満度の変化」 水産研究部 資源増殖チーム 研究員 和田 宗一郎 「未利用魚(アイゴ)臭気測定結果」 水産研究部 養殖環境チーム 主任研究員 斉藤 義昭

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

生徒・児童等の学校関係者や生産者を中心に、視察、見学及び実地の研修や実習等に対応した(図3)。

水産研究部および北部水産グループにおける受入対象者別の実績を表4に示した。

表4 視察等受入れ実績

対象者	水産研究部		北部水産グループ	
	件数	受入人数	件数	受入人数
生産者				
団体職員			1	16
大学生	3	7	1	3
小・中・高校生	4	105	2	33
その他			1	4
合計	7	112	5	56



図3 大学生を対象としたインターンシップ研修の様子